

明日の丹波市素描

2019年2月 第02号

<http://kobashi.ne.jp>



眠る『観光拠点』としての可能性

丹波市の立地的優位性を活かした戦略を

丹波市において、外からの流入つまり観光による経済活性化と雇用の創出は重要です。

観光資源が無いという声も聞きますが、関西という大きな視点から眺めましょう。左図では丹波市を中心に車を使っておよそ2時間以内で行けるところを円で示しました。

この範囲に関西の主な観光地が含まれます。丹波市はそれらの中心に位置するという立地的優位性を持ちます。この優位性を活かすにはどうすればいいでしょうか。



二つの方向が考えられます。に基づいて紹介しましょう。

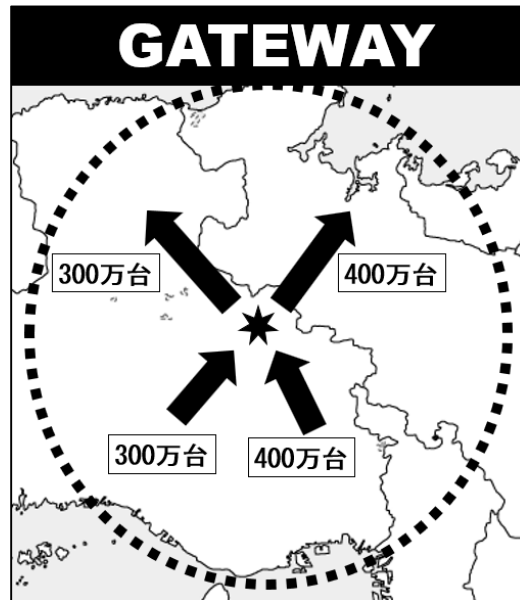
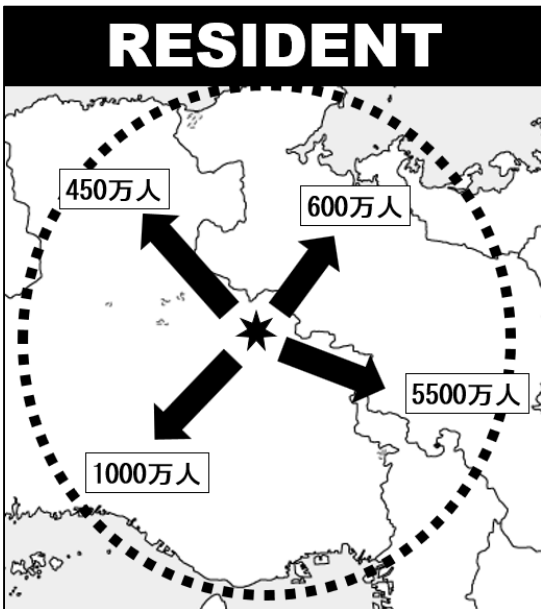
一つは右の「ゲートウェイ」通過点戦略です。春日インター周辺を経て、年間七百万台の車が往来しています。その立ち寄り地点として丹波市の価値を高める方法です。

もう一つは左の「レジデント」滞在拠点戦略です。天橋立や舞鶴などに六百万人、城崎で四百五十万人、姫路で一千万人、京都市で五千五百万人という、

多くの観光客が毎年これらの地を訪れています。丹波市に滞在すれば、そのいずれにも二時間以内で行けます。特に海外のお客様向けに、関西の観光地巡りに最適の長期滞在地として打ち出すことです。

少し立ち寄る、のんびり滞在して有名観光地を巡

下図



る合間に息抜きする。丹波市をメインと考えるのではなく、広域的目線から丹波市の役割をとらえると、新しいアイデアが生まれてくるのではないのでしょうか？
(二〇一八年九月議会にて提案)

◆◇前半2年の議員活動通信簿◆◇

当初掲げた3分野9項目の進捗状況を振り返ります

(1)市民と行政の協働を促進

「市民の側に参画する行政の推進」については、活躍する職員を表彰する制度が実現しました。「市民応援プラザ開設」については、計画が進行中。「民間との協働を促進」については、提案はしたものの制度化には至っていません。

(2)共感を広げるしくみを構築

「課題を解決し発信する横断的組織」については、シティプロモーション室が作られました。「食卓からの農業振興で食産業を創造」「持続型社会のモデルを作る」については、まだ糸口を探している段階で、具体的な提案ができていません。

(3)多様性を大切にする社会

「ITを活用したワークスタイルを創造」と「丹波の森を子育てや交流に活用」については提案を練っている段階です。「多様性を市民の誇りに」については、考え方が市政にだいぶ浸透しましたし、氷上回廊の活用計画も進んでいます。

9項目中、形になっているのが4項目、前進したのが1項目、まだこれから具体的な提案が必要なものが4項目。形になった項目の充実も含めて、後半の課題です。

市民の立場にたって合意形成を

会派代表への就任にあたって決意

この活動報告の第一号で、議会の存在意義として、次のように記しました。

丹波市の未来を創るために確実な「正解」なんてありません。だからこそ二十人の議員が必死になつて知恵を交換し、首長と議論し、少しでも「正しいらしい答え」／わたしたちなりの答え」を導いていく。この不断の努力こそ、議会の本質と考えます。

後半の二年を前に、新人議員十人で結成していた会派「丹新会と維新」は解散し、新しく九名で「丹新会」を結成しました。会派の代表を務めることになり、あらためて前述の思いを振り返っています。

丹新会には、それぞれに得意分野を持つ議員がいます。その意見交換を促すことで各自の知見を融合するとともに、課題に対して市民の方々の中にある多様な目線を

反映し、ひとつの「答え」を導く努力をしたいと。

九名の議員による熱い議論を議会に反映させていくことができれば、市民に開かれた議会への一助にもなるのではないかと考えています。

常任委員長に就任

十二月より、総務文教常任委員会の委員長を拝命しました。総合政策、財政、地域づくり、教育などを担当します。

研鑽を重ね、市政への監視と提案を行って参ります。皆様のご意見をお待ちしています。

小橋昭彦後援会

〒669-4265

丹波市春日町中山 1150

ホームページではさらに詳しい情報をお届け中。

<http://kobashi.ne.jp>

気軽にお問合せください。

